

大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 環境政策課 ☎24-5257

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m³あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		4/5~4/12	4/12~4/19	
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.13	0.049
	南相馬市就業改善センター (飯崎)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.077	0.031
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.10	0.026
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.078	0.060
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.066	0.021
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.10	0.022
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.150	不検出
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.062	0.12

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		4/5~4/12	4/12~4/19	
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.17	0.015
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.048	0.016

※検出限界値はおおむね0.02~0.03mBq/m³の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

●渡邊正己京都大学名誉教授
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説●

平減期2年のセシウム134は全く測定されず、平減期30年のセシウム137は極めて低濃度で推移し、健康影響を心配することはありません。セシウム137は、今後も数十年という長期間に渡って僅かな量ながら観測され続けますが、その放射エネルギーは、自然界で観測される他の放射性物質に由来する放射エネルギーの変動幅に留まっています。加えて、事故が起きた原子炉の復興に伴う放射性物質による環境汚染もありませんのでご安心ください。